

## 議事録

■開催日	令和 3年 5月 10日（月） 13時30分～16時30分		
■開催方法	ZOOM会議	■出席者	72名（別紙参加者名簿を参照）
■概要報告			
<p><b>1. 令和3年度全国観光圏推進協議会の在り方について</b></p> <p>小林会長より以下の挨拶があった。</p> <p>緊急事態のさなか、厳しい環境を強いられている。観光庁から昨年度のアンケートの総括ということでご提案・支援制度等のお話もあると思うので、今日の協議会の内容を真摯に受け止めて色々な方のサポートを受けながら、やっていきたい。</p> <p><b>2. アドバイザー挨拶</b></p> <p>清水アドバイザーより以下のとおり挨拶があった。</p> <p>アドバイザー3年目。3つほど2年間の気づきをお伝えしたい。</p> <p>①昨年度は政府・自治体の観光支援事業が多く出てきたが公募から申請までの期間が短いものが多かった。地域内・組織内・外の方も含めて観光地のビジョンを共有し恒常的にやっていくと、いざ公募が出たときに応募できる瞬発力が発揮できる。できるだけ皆さんに多くとっていただきたい。それが地域の強さを増していく原動力となり、地域のためにいた力を遺憾なく発揮できるのではないかな。</p> <p>②感染症対策について、やまなしグリーンゾーン認証などは感染症対策の入口。発症してしまった場合の出口をどうするかと各地で考えていく必要がある。</p> <p>③地域で観光が苦しい状況である。観光を復興していく時に地域経済にとって、波及効果を捉えなおしていく、色々なエビデンスをチームで押さえていく必要があると思う。</p> <p><b>3. 観光庁より</b></p> <p>観光庁観光地域振興課 富樫課長より以下のとおり情報提供があった。</p> <p>①広域周遊観光促進のための観光地域支援事業</p> <p>令和3年度の予算、7億6千5百万、用意計上していた。</p> <p>1億程度の予算がまだ残っている。2次募集をかける。調査戦略策定は公募しない。</p> <p>ターゲットが求める内容のコンテンツ造成を行って頂きたい。</p> <p>場当たりの申請が多々あった。改めて内容をしっかり吟味したうえで出して来て頂きたい。</p> <p>受入環境整備事業は旅行商品流通環境整備事業を含むものにして頂きたい。</p> <p>コンテンツもそうだが、作って終わりのところが多い。旅行商品まで作り上げるというところまで考えて上げて来て頂きたい。</p> <p>②地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進事業</p> <p>上限1500万。観光以外の他の産業と連携し地域の観光資源を磨き上げる取組みを支援する。</p> <p>5月中旬から下旬にかけて選定。1期・2期に分けて公募。2期は6月上旬から7月上旬にかけて公募する。</p> <p>③地域観光事業支援について</p> <p>各県において行われてきた旅行商品や宿泊に対して居住地と同一圏内の旅行を割り引き支援する1泊当り（日帰りは1人当たり）5千円・商品代金の50%上限。クーポンは2千円を上限に追加支援。4月1日から5月31日まで実施予定であったが、各県の要望があり期間を12月まで延期する。ステージⅡ相当以下と判断した都道府県に実施。キャッシュが回るよう前払いを追加で認めることにした。</p> <p>まだまだ、地域づくりという活動がまだしっかりとされていないのかなという感想。</p> <p>今後、観光圏としてどうあるべきか皆様方と意見交換していきたい。</p> <p>④前回の協議会で実施したアンケートの結果について富樫課長より以下のコメントがあった。</p> <p>質問1：回答だけを聞くと関係者を巻き込んで、議論がなされ、様々な計画が作られているのかと思った。</p> <p>質問2：関係者の聞き込みがまだまだ課題。観光圏に関係する方々を巻き込みきれていないのではないかな。極一部の関係者で計画や取組内容が作られているのではないかな。</p>			

質問3：法定根拠を持った組織なので自治体の財政支援を得られやすい。

質問4：観光事業者の認知はあるけれど、それ以外の事業者への認知度がまだ低い。ばらつきがある。観光圏としての活動がしっかりと地域に根ざしていない部分はまだあるのではないか。

本来の目的である観光圏の取り組みである効果、観光客を誘致する、ということを地域の方に認識してもらうということで、認知度が上がるのであろうと思う。

質問5：各プラットフォーム・プラットフォーム外で活動されているところが半分ぐらい

#### 4. 質疑応答

(小林会長)

我々としては観光圏を維持し、支援を継続して予算化し情報提供いただきたい。観光圏にも今後とも色々な応募にはご助言・サポートをお願いできればと思う。

(富樫課)

そこも含め13観光圏あり、本当の意味で観光圏、どういう風に活動していけばいいか皆さんと議論させて頂きたい。

(小林会長)

観光圏も10年経過し、取組の色分けを観光圏にも必要なかと思う。

(清水アドバイザー)

観光圏の中の立ち位置・実力が差がある中、明確に踏み込むかどうか。

観光圏はDMOとは違うと思っている。観光圏は組織論というより、どういう誘客の種をつくっていくか考えるグループ。コンセプトとエリアが命。

実現できる組織・事業が観光圏のプラットフォームであり組織であり、DMOとは違う。

コンセプトを作り上げていくプロセスを観光圏として強化していく必要があるのではないか。

どのくらいの方が全体のあるべき姿を思い描いて、組織として適切なチームオーダーで、適切な事業をコンセプトに基づいて組み上げていけるか、だけが問題のような気がする。

観光圏が重要であるなら観光圏が重要なのではないか。その辺りが、観光地域づくり法人との差別化なのではないか。

(井口副会長)

清水先生がおっしゃったとおり。新しい枠組みにより、新しいブランドを作っていくのが必要だと思う。

しっかりしたブランドの軸を作って、それに沿った組織を作っていくことが必要だと思う。

(清水アドバイザー)

2008年から観光圏をやってきて、経緯の資料が残っていないか。記録としても残して頂きたい。

(富樫課長)

整理してご相談したい。

(植田委員長)

清水先生を含め各観光圏代表者だけの会議をして方向性を決めた上で、観光庁富樫課長とお話するお時間をいただければ、と思う。

#### 5. 2021年度の取り組み方針

JNTO地域連携部 佐々木部長より「2021年度の取り組み方針」について資料に基づき説明があった。

(詳細は資料参照)

インバウンドをとりまく厳しい状況ではあるが、今できることをしっかりやってきた。今年度も同じような方向でやっている。いずれ戻ってくるインバウンドに対し情報を出し続けていくことが重要。地方も含め日本全国の魅力を海外だけではなく国内にも情報発信していく。

## 6. 令和3年度事業費について

事務局より今年度の事業費について説明があった。今年度は全国観光圏推進協議会事業・「VISIT JAPAN トラベル & MICE マート」商談会参加・「Undiscovered Japan」情報発信事業・全国観光圏共通マーケティング調査事業の4事業。各観光圏の見積もり額合計1,076,346円。

## 7. UDJ事業報告

植田委員長よりJNTOへ訪問した件について、報告があった。

昨年度UDJ周遊モデルコース造成事業で作成した13観光圏のモデルコース、滞在コンテンツ集を見て頂いた。JNTOから改めて全国にコンテンツ集を募集されるのでそれぞれエントリーして頂き、是非掲載になるようにお願いしたい。

## 8. 令和2年度 第3次補正の定額事業の取組み状況について

各観光圏より、第3次補正の定額事業あるいは、その他の事業の取組み状況について説明があった。

## 9. 総括

清水アドバイザーより以下のとおり総括があった。

直近の事業の確認をして、色々な財源に手を出していただいて、活用できるものはしていただければいいか、と思う。

地域がかかえてきた課題、解決しても色々なまだある課題を明快にして、市場動向など、また、もう少し先のトレンドの動きを想定し、かつSDG sなど世界的な動きなどマッチしてくると魅力的な提案に見える。そういう観点で作って頂くとかかり描けるのではないか。

DMOとしての提案か、観光圏としての提案か、仕分けができていないケースがあるのではないか。観光圏のメリットをフルに活かしているものかどうか、少しお考え頂くといいかと思う。

## 10. その他 「観光地域診断ツール Destination-NEXTのご紹介」

日本観光振興協会北島部長よりDestination-NEXT（地域の合意形成を促進支援するための観光診断ツール）について資料に基づき説明があった。（詳細は資料参照）

## 11. 閉会の挨拶

井口副会長より以下のとおり挨拶があった。

観光圏の本質の守るべき価値と変わるべき価値を共通認識を持つことが次の世代のためにも大事なのかな、と思う。分科会をつくり議論できる時間をもっていただけるといい。

### ■特記事項（写真・模様等）

